ミーティングリポート

今回は、高校バスケットボール部のアメリカ遠征に帯同したブライトボディスタッフから、アメリカ遠征での活動報告、アメリカの学生スポーツのシステムや学生スポーツを取り巻く環境に関して話をしました。

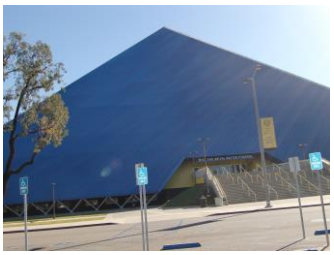
― 主　な内　容 ―

＜アメリカ遠征＞

2014年7月、高校バスケットボールチームが今年で3回目となるアメリカ遠征を実施しました。アメリカはカリフォルニア州にある大学が主催するバスケットボールキャンプに参加をしました。バスケットボールキャンプでは、トーナメントに参加し、現地高校生チームと対戦をしました。選手たちにとっては外国人と戦う機会であり、良い経験になりました。あとは、現地のスポーツ施設を見てまわり、日本と違う環境を肌で感じることができたと思います。

バスケットボールキャンプに参加する為に、事前に書類上でのメディカルチェックや脳震盪の既往歴、対応に関してなどを明確にします。アメリカでは、そういうことが起こっただけで裁判が起きる場合もあります。主催者側も十分に注意をして安全を確認してから参加してもらいます。日本ではまだそこまで注意をして開催するクリニックは少ないように思います。選手を守るためにも、主催側を守るためにも、本当に必要なことなのかもしれません。

＜学校スポーツの形＞



日本とアメリカの学校スポーツにおけるサポート体制の大きな違いの一つは、チームドクターの関わり方です。日本では、学校スポーツにチームドクターの制度はなく、ドクターに診てもらう為には病院に行って受診をするのが一般的ですが、アメリカではチームドクターが定期的に現場に来て対応をしてくれます。コンタクトスポーツのゲーム時には、必ずドクターが会場にいて、緊急のアクシデントが起きた場合にすぐに対応が出来る体制になっています。大学によっては、学内にレントゲンやMRIが撮影できるような施設もあります。保険については、アメリカでは基本的に個人で加入しますので、選手がどんな保険に入っているのかを必ず確認します。選手が加入している保険によって、手術時期やリハビリ期間などの対応が変わってきてしまうこともあります。

＜アメリカ学校スポーツのシステム＞

アメリカのスポーツはシーズン制になっています（右図）。プログラムシステムが決まっており、一つの学校でもVarsity（Aチーム）、Jr. Varsity（Bチーム）、Rookie（高校1年生のみ）という複数のチームがあります。毎年、トライアウトも行われ、力のある選手はどんどんトップチームに選ばれます。各チームで公式戦があるため、各レベルで多くの選手が試合に出る機会があります。また、シーズンで分かれているため、数チーム掛け持ちする選手もいます。学校の成績で、日本でいう赤点があると、活動が出来なくなり、試合出場停止になる決まりがあります。

～シーズン制～
・9月～12月　秋シーズン
（アメフト、サッカー、バレーボール、etc）
・11月～2月　冬シーズン
（バスケットボール、レスリング、etc）
・1月～5月　春シーズン
（野球、ソフトボール、テニス、ゴルフ etc）

＜参加者からの質問＞

○質問：「海外遠征で気をつけること」

ケガについては、普段から起こりうるようなケガが多いので、そこに大きな差はありません。日常生活レベルでは日本と違うので気をつけないといけないことがあります。例えば、国によっては水で食当たりが起きる地域もあるので、生野菜は食べず、ジュースを頼む際に氷を抜いてもらうなどを気に掛ける時もあります。

参加者：高校野球指導者１名、理学療法士９名、治療家１名、学生２名、　合計１３名

＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＞＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜＜

次　回　の　開　催　予　定

次回の開催予定は、下記の通りです。個人的に質問のある方は少し早めにいらして下さい。この機会に是非ご参加下さい。

平成26年11月3日　「トレーナーによる質疑・応答」